

DC まめレポート

～運用環境振り返り編～

国内株式および国内債券市場 2020年10月～12月

運用先市場の状況

作成基準日 2020年12月31日

○国内市場

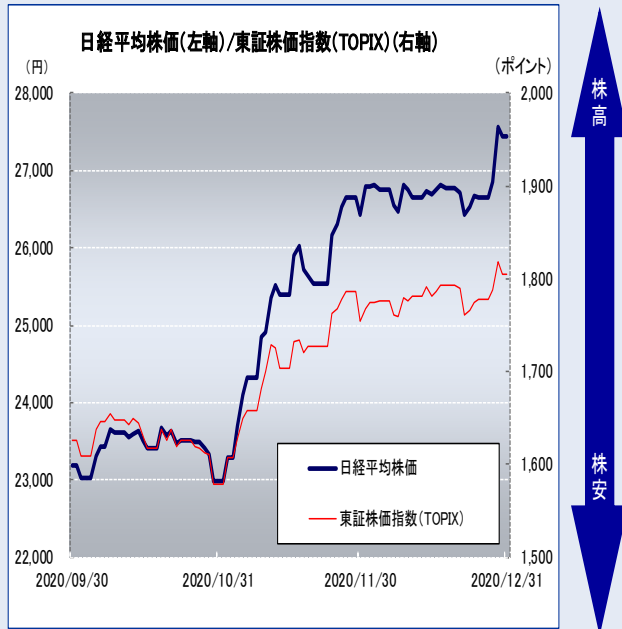
・株式市場

国内株式は大幅に上昇しました。

10月は上旬、米国追加経済対策の協議進展を期待する見方から、上昇しました。下旬は欧州において外出制限を強化する動きが相次ぎ、景気の先行きに対する警戒感が強まったことから下落しました。

11月上旬、米大統領選を経ての米株高や、新型コロナウイルスワクチンの実用化への期待、7-9月期決算において製造業中心に総じて業績の回復基調が示されたことなどが支えとなり、大幅に上昇しました。その後も上昇基調が続き、経済活動正常化への期待に加え、米ハイテク株高などを受けて、リスク選好姿勢が続き、堅調な展開となりました。

12月は、ワクチンの普及による経済活動正常化への期待が支えとなったものの、国内外における感染拡大などが相場の重石となり、一進一退の展開となりました。下旬は、米追加経済対策法案の成立や、米主要株価3指数が史上最高値を更新する動きを受けて、国内でも年初来高値を更新しました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

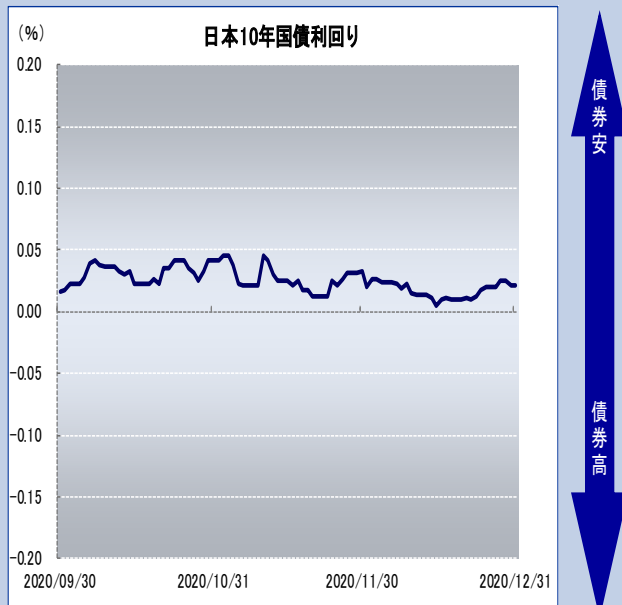
・債券市場

国内長期金利(10年国債利回り)はほぼ変わらずとなりました。

10月は上旬、財政拡大期待の高まりを受けて米国金利が上昇したことで、小幅に金利上昇しました。日本国内では新型コロナ感染拡大が相対的に抑制されるなか、政府が給付金の再支給には慎重な姿勢を示したことで、補正予算の大規模化懸念は後退しました。

11月は、米大統領選挙で民主党のバイデン氏が優勢と判明し、議会とねじれが生じるとの見方(上院は共和党、下院は民主党が過半数)が強まると、大規模財政政策への警戒感が後退して海外金利が低下基調となり、国内長期金利も小幅に低下しました。

12月は、国内外で感染拡大による景気不振が意識されるなか、低下基調が始まりました。日銀の金融政策決定会合では、新型コロナウイルス対応資金繰り支援特別プログラムの延長が決定されたほか、2%の物価目標を実現するためのより効果的で持続的な金融緩和の点検を行い、3月会合を目標に結果を公表することが示されました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

運営管理機関：三井住友海上火災保険株式会社 加入者専用コールセンター 0120-401-841

平日(月～金) 9:00～20:00 土日 9:00～17:00 (祝日・振替休日・年末年始等は休業させていただきます。)

■当資料は、確定拠出年金の運用指図を行うために参考となる情報の提供等を目的としたものであり、運用方法に係る勧誘等を目的とするものではありません。最終的な運用指図については、お客さまご自身の判断で行ってください。■当資料は、作成日において信頼できると判断した諸データに基づいて作成したのですが、その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、また今後の成果を保証・約束するものではありません。■当資料の内容について、無断で使用、転用、複製することを禁じます。

DC まめレポート

～運用環境振り返り編～

外国株式および外国債券、為替市場 2020年10月～12月

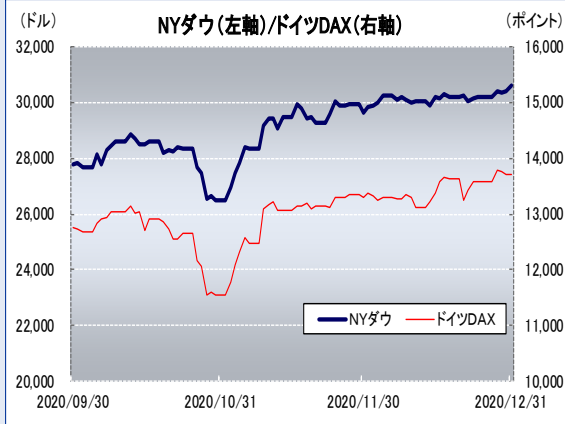
運用先市場の状況

作成基準日 2020年12月31日

○外国市場

・株式市場

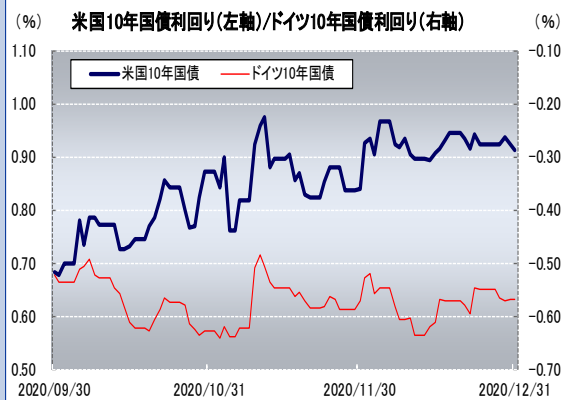
米国株式市場は大きく上昇しました。
10月は、9月の大幅下落に伴う値ごろ感などから反発して始まりました。中旬以降は、欧米で新型コロナウイルスの新規感染者数が再び増勢を見せたことで投資家心理が悪化し、月末にかけて下落しました。
11月は、大統領選挙の決着による政治的不透明感の後退、ワクチン開発の進展などから株価は大幅に上昇しました。
12月は、9,000億ドル規模の追加景気対策案の成立や政府機関閉鎖の回避、国内でのワクチン接種開始などが好感され、月末にかけて上昇しました。
欧州市場も上昇しました。
英国とEU(欧州連合)の通商協定を巡る不透明感が相場の重石となりましたが、12月には自由貿易協定の合意に至りました。また、12月のECB(欧州中央銀行)理事会では、PEPP(パンデミック緊急資産購入プログラム)を中心とした追加緩和が決定されました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

・債券市場

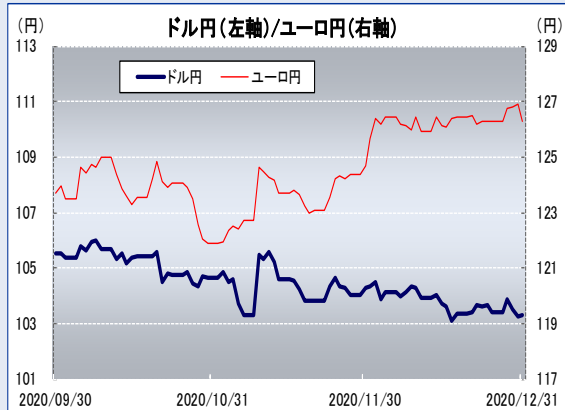
米国長期金利(10年国債利回り)は上昇しました。
10月は、11月の大統領選後の積極的な財政支出に対する期待感から、金利は上昇しました。
11月は、新型コロナウイルスワクチン開発の進展が金利上昇要因となる一方で、選挙の結果、ねじれ議会となる可能性が高く、大規模な財政拡大への期待が後退したことなどが金利の下押し要因となり、一進一退の推移となりました。
12月は、ワクチンの普及が期待される一方で、足元の感染拡大による景気悪化が懸念され、揉み合いとなりました。
ドイツ長期金利(10年国債利回り)はわずかに低下しました。
ユーロ圏では、欧州各国で新規感染者数が急増し行動制限措置が強化されるなか、景気の下振れへの警戒から金利は低下しました。ワクチン開発の進展などから金利が上昇する場面もありましたが、ECBによる追加緩和もあり一進一退となりました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

○為替市場

米ドル/円は円高、ユーロ/円は円安となりました。
10月は、月初は米株価が上昇するなどリスク選好の動きから一時米ドル高となりましたが、月後半は米国株価が下落に転じリスクセンチメント(投資家心理)が悪化するなか、米ドル安の流れが強まりました。また、欧州圏の感染拡大と行動制限措置の強化への警戒から、ユーロ安・円高となりました。
11月は、ワクチン開発の進展を背景とするリスク選好の動きから、一時米ドル高となりました。月後半は米金利の低下などを背景に米ドル安傾向となりました。ユーロ/円は、ワクチン開発の進展や株価の上昇などを背景とするリスク選好の動きからユーロ高・円安となりました。
12月の米ドル/円は、ワクチンへの期待や米追加経済対策への期待を背景とするリスク選好の動きから、全般的に米ドル安圧力が強まる中、米ドル安・円高となりました。ユーロ/円は、ワクチンへの期待や株価の上昇などを背景とするリスク選好の動きから、ユーロ高・円安となりました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

運営管理機関：三井住友海上火災保険株式会社 加入者専用コールセンター 0120-401-841
平日(月～金) 9:00～20:00 土日 9:00～17:00 (祝日・振替休日・年末年始等は休業させていただきます。)

■当資料は、確定拠出年金の運用指図を行うために参考となる情報の提供等を目的としたものであり、運用方法に係る勧誘等を目的とするものではありません。最終的な運用指図については、お客さまご自身の判断で行ってください。■当資料は、作成日において信頼できると判断した諸データに基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、また今後の成果を保証・約束するものではありません。■当資料の内容について、無断で使用、転用、複製することを禁じます。